

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

令和5年厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュトリーサイエンス政策研究事業)

地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が 地域で果たすべき機能に関する調査研究

令和5年度 総括研究報告書

研究代表者 山村 重雄

令和6年(2024)年 5月

目 次

I. 総括研究報告	
地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究	3
研究代表者 山村重雄	
研究要旨	3
研究班の構成	3
A 研究目的	3
B 研究方法	4
C 研究結果	4
D 考察	4
E 結論	4
F 研究危険情報	5
G 研究発表	5
H 知的財産権の出願・登録状況	5
資料名	
(資料1) 地域連携薬局の現状に関する調査票	6
(資料2) 地域連携薬局の認定を受けていない薬局への調査票	19
(資料3) 専門医療機関連会薬局の現状に関する調査票	29

厚生労働科学研究費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業：令和5年度補助金
(医薬品・医療機器等レギュレトリーサイエンス政策研究事業))

総括研究報告書

地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究

研究代表者：山村重雄 城西国際大学薬学部 特任教授

研究要旨

超高齢社会の日本における地域医療を考えたとき、地域包括ケアシステムの機能を十分に発揮させる必要がある。地域薬局は地域包括ケアシステムの中核を担うことが期待される。地域の中で医療機関と連携して患者の情報を共有して地域で薬物治療をサポートする地域連携薬局や特に専門的（特にがん）な薬学管理が必要な患者に対して高い専門性を提供する専門医療機関連携薬局が認定されている。本研究では地域連携薬局、専門医療機関連携薬局における具体的な地域との連携およびその活動の実態を明らかにし、今後、地域において認定薬局がどのような機能を果たすことが望まれるかを調査することを目的とする。地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の現状に関する調査票の作成、結果の収集のためのシステム作りを行った。また、令和6年3月に専門医療機関連携薬局に調査依頼文書を郵送し、WEBを経由してアンケート結果を収集した。現在、アンケート結果を集計中である。引き続き、地域連携薬局および地域連携薬局の認定を取得していない薬局へのアンケート調査およびこれらの薬局を利用している患者への地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の認知度・理解度および求められている機能を調査する予定である。

研究班の構成

研究代表者

山村重雄 城西国際大学・薬学部・特任教授

研究分担者

岡崎光洋：東京大学大学院・薬学研究科・医薬政策学講座・特任研究員

藤 秀人：富山大学・学術研究部薬学・和漢系・教授

友成真理：富山大学・学術研究部薬学・和漢系・客員助教

藤岡孝志：富山大学・学術研究部薬学・和漢系・協力研究員

倉田なおみ：昭和大学・薬学部健康薬学講座社会薬学部門・客員教授

四十竹美千代：城西国際大学・看護学部・教授

吉岡優子：一般社団法人日本コミュニティーファーマシー協会・代表理事

研究協力者

内池明博：日本大学医学部附属板橋病院薬剤部

A. 研究目的

超高齢社会の日本における地域医療を考えたとき、地域包括ケアシステムの機能を十分に発揮させる必要がある。地域薬局は地域包括ケアシステムの中核を担うことが期待されるが、薬局認定制度で認定されている地域連携薬局、専門医療機関連携薬局が地域において必要な機能を十分に果たすことが求められる。認定薬局の数は増えてきているが、認定取得後、地域で具体的にどのような活動をしており、地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかについては学会等で断片的な情報が公開されているにとどまっている。

そこで、本研究では、認定されている地域連携薬局（約3900薬局）、専門医療機関連携薬局（約170薬局）における地域における他の医療施設との連携およびその具体的な活動の実態を明らかにし、今後、地域において認定薬局がどのような機能を果たすことが望まれるかを調査することを目的とする。すなわち、各認定薬局が地域でどのような医療施設（病院、診療所、薬局等）と連携してどのような活動をしており、地域でどのような役割を果たしているかの現状を調査する。また、認定薬局が地域で十分な機能を果たすための問題点を調査し、現状の認定薬局の認定要件の妥当性について評価する。調査票の作成には、社会薬学や地域医療の専門家の他、看護師、地域薬学ケア専門薬剤師（がん）、認定薬局で働いている薬剤

師等で構成される研究協力者が参画する。

さらに、アンケートに協力してくれた地域連携薬局、専門医療機関連携薬局でサービスを受けている患者に対してアンケート調査をおこない、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の認知度・理解度および求められている機能を調査する。これらの結果を考察することで地域社会での地域薬局の活動の現状と問題点を明らかにすることで、これからの地域に望まれる薬局・薬剤師の在り方を考察する。

令和5年度

地域連携薬局、専門医療機関連携薬局の現状に関する調査票の作成、結果の収集のためのシステム作りを行った。調査票およびシステムの作成後、令和6年3月をめどに地域連携薬局、専門医療機関連携薬局に調査依頼文書を郵送し、WEBを経由してアンケート結果を収集した。

令和6年度

前年度に引き続き、WEBを経由してアンケート結果を収集する。さらに、研究施設・団体に所属する地域連携薬局50薬局、専門医療機関連携薬局10薬局程度を含め協力を表明した薬局を利用している患者へのアンケートを実施して、認定薬局の認知度・理解度、認定薬局に期待することの関するアンケート調査を実施、今後の望ましい認定薬局のあり方を考察する。

B. 研究方法

本研究は、地域医療において地域連携薬局や専門医療機関連携薬局が果たしている役割の実態把握、及び今後求められる機能の検討のための調査研究である。

本研究は以下の項目から構成される。

項目1 地域連携薬局や専門医療機関連携薬局が果たしている役割の実態把握

実験デザインは横断研究であり、2023年12月末現在で薬局認定制度で認定されているすべての地域連携薬局、専門医療機関連携薬局を対象とする。地域連携薬局に対する調査表の作成には主に、研究代表者（山村）、研究分担者（藤、友成、藤岡）が、また、専門医療機関連携薬局に対する質問表は研究代表者（山村）、研究分担者（岡崎、倉田、吉岡）があたる。質問票の作成には看護師である研究分担者（四十竹）のほか地域薬学ケア専門薬剤師（がん）である内池昭博氏（日本医科大学付属病院）、地域連携薬局・専門医療機関連携薬局に勤務する薬剤師を含む研究協力者が参画することで幅広い見地からの認定薬局の機能に関する情報を収集する。主な、調査項目は、医療施設（病院、医院、薬局等）との連携状況（人的交流を含む）、その活動内容、認定要件の実施状況

（件数など）、認定薬局としての活動の問題点などである。

WEB経由で回答を回収できるシステムを構築し、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局に調査協力依頼とともに調査票を送付し、回答を収集する。加えて、現在地域連携薬局の認定を取得していない薬局に対してもアンケート調査を行い、認定取得に対する障害を明らかにすることで、認定要件の課題を明らかにする。

今回の調査は認定薬局すべてを対象とするためサンプルサイズの設定は行わなかった。期待回収数は50%程度を見込んでいる。回収率を上げるために、日本薬剤師会からも会員薬局に調査協力依頼状の発送を依頼し、回収率の向上につとめた。

項目2 地域連携薬局や専門医療機関連携薬局利用患者に対するアンケート調査

認定薬局を利用している患者に対して、認定薬局の認知、認定薬局の機能の理解、地域での望まれる認定薬局の活動・機能などを調査する。

これに関しては令和6年度に実施予定である。

（倫理面への配慮）

本調査研究は、城西国際大学人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を受けた。（承認番号07F230040）

C. 研究結果

令和5年度は以下の研究を行った。

項目1 地域連携薬局や専門医療機関連携薬局が果たしている役割の実態把握

地域連携薬局、地域連携薬局素取得していない薬局および専門医療機関連携薬局に対する質問票を作成した。（資料1から資料3）。質問票の回答収集のためのシステムを作成した。システムの作成は実績のある外部業者に委託した。令和6年3月に専門医療機関連携薬局への調査票と調査への参加の依頼状の発送を行った。本報告書作成の段階で調査票の集計中であり、調査結果の詳細は現時点で得られていない。

D. 考察

令和5年度の調査研究は、実施期間が令和5年11月（採用通知が令和5年10月30日）からと非常に限られていたために、調査票の作成とシステムの作成に追われた。調査票の作成には日本薬剤師会との内容のすり合わせなどに時間を要したため、に、本調査報告書の作成段階で明確な結果・結論が得られていない。

E. 結論

本調査報告書作成の段階で、明確な結論が得られるまで進めることができなかった。引き続き、

地域連携薬局、および認定を取得していない薬局への調査を実施する。さらに、薬局の利用者への調査を合わせて進めていく。

F. 研究危険情報
特記事項無し

G. 研究発表
特記事項無し

H. 知的財産権の出願・登録状況
特記事項無し

(資料1) 地域連携薬局の現状に関する調査票

●対象

2023 年 12 月 31 日までに地域連携薬局の認定を受けている薬局(新規・更新)の管理薬剤師

アンケート調査の趣旨

超高齢社会の日本におけるこれからの地域医療を考えたとき、地域包括ケアシステムの機能を十分に発揮させる必要があります。地域薬局は、地域包括ケアシステムの中核を担うことが期待されておりますが、そのためには、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局などの認定薬局が地域において十分な機能を十分に果たすことが求められます。認定薬局の数は増えてきておりますが、認定取得後、地域で具体的にどのような活動をしており、地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかについては学会等で断片的な情報が公開されているにとどまっています。

そこで、令和 5 年度厚生労働省科学研究費により、「地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究」を実施することとなりました。この研究では、認定を受けている、すべての地域連携薬局(約 3900)、専門医療機関連携薬局(約 170)を対象に、地域活動の現状および地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかの調査を行うこととなりました。あわせて、現在地域連携薬局の認定を受けていない薬局に対しても調査を行い、認定要件の課題を抽出することを目的としております。

今回の調査対象は 2023 年 12 月 31 日までに地域連携薬局の認定を受けている薬局(新規・更新)の管理薬剤師となります。

○調査内容

・以下の調査項目にご回答いただきます。

薬局の基本情報について、地域連携薬局に対する質問、直近の認定申請時の状況について

○調査への参加について

- ・本調査への参加(web への入力)は任意です。
- ・本調査に参加すること、および参加しないことにより、いかなる不利益を受けることはありません。
- ・また、本調査に参加することによるリスクは認められていません。
- ・最終確認前にブラウザを閉じれば、いつでも参加を中止することができます。
- ・すべて回答するのに 30—40 分程度かかると想定されます。

○調査画面の入力と個人情報の保護、データの保管について

- ・入力したデータをもとに薬局・企業名を特定することはありません。
- ・調査結果は取りまとめの上、公表することがございますが、取りまとめ及び公表に際して、個別の薬局名・企業名が特定できる記載は一切行いません。
- ・入力されたデータは、城西国際大学と業務委託契約締結した調査会社の保有するサーバー上に保管されますが、データの保守には十分配慮されます。

○解析用のデータはセキュリティ機能のある USB メモリーの中に保管され、厚生労働省への報告後5年間保管された後に物理的に破壊することで破棄される。

なお、本調査研究は、城西国際大学人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を受けております。(承認番号 07F230040)

本調査の本調査研究の重要性をご理解頂きご回答いただきますようお願いいたします。

なお、本研究の研究班は以下のメンバーで構成されています。

実施責任者 城西国際大学・薬学部・特任教授 山村重雄
東京大学大学院・薬学研究科・医薬政策学講座・特任研究員 岡崎光洋
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・教授 藤 秀人
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・客員助教 友成 真理
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・協力研究員 藤岡 孝志
学校法人昭和大学・薬学部社会健康薬学講座 社会薬学部門客員教授 倉田なおみ

城西国際大学・看護学部・教授 四十竹美千代
一般社団法人日本コミュニティーファーマシー協会・代表理事 吉岡優子

研究責任者の連絡先
城西国際大学薬学部 特任教授 山村重雄
〒283-8555 千葉県東金市求名 1
電話:0485-53-4544 s_yama@jiu.ac.jp

研究責任者の連絡先
城西国際大学薬学部 特任教授 山村重雄
〒283-8555 千葉県東金市求名 1
電話:0485-53-4544 s_yama@jiu.ac.jp

城西国際大学と業務委託した調査会社
株式会社矢野経済研究所 PSU1 武田浩二
〒164-8620 東京都中野区本町 2-46-2 中野坂上セントラルビル
電話:03-5371-6925 ktakeda@yano.co.jp

SC1. 上記の内容に同意いただける場合は、「同意する」を選んでアンケートへお進みください。

1. 同意する
2. 同意しない

I 薬局の基本情報について

1. 同一グループ(財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局)の店舗数(貴薬局を含む)で当てはまるものを選択してください。
 - a. 1 店舗
 - b. 複数店舗(2～5 店舗未満)
 - c. 複数店舗(5～20 店舗未満)
 - d. グループ(20 店舗以上 50 店舗未満)
 - e. グループ(50 店舗以上 300 店舗未満)
 - f. グループ(300 店舗以上)
2. 貴薬局の所在地を教えてください。
都道府県で選択する。
3. 貴薬局周辺の公共交通機関の運行状況について教えてください。
 - a. 正午時間帯に 15 分以内の間隔で運行している。
 - b. 正午時間帯に 30 分以内の間隔で運行している。
 - c. 正午時間帯に 60 分以内の間隔で運行している。
 - d. 正午時間帯にほとんど運航されておらず、自家用車など交通手段が必要である。
 - e. その他
4. 貴薬局の立地の状況を教えてください。
 - a. 診療所の敷地内または周辺
 - b. 大病院(400 床以上)の敷地内または周辺
 - c. 中小病院(400 床未満)の敷地内または周辺
 - d. 同一ビル内に複数の医療施設(医療モール)
 - e. 同一ビル内に単一の医療機関
 - f. 同一敷地内に複数の医療機関(医療ビレッジ)
 - g. その他(記述)
5. 貴薬局の開局からの年数を教えてください。()年

6. 貴薬局に勤務している薬剤師数(常勤、非常勤を含む)を教えてください。

	常勤薬剤師	非常勤薬剤師
6-1)当該店舗に勤務する薬剤師数 (休職中の者も含む)	人	人
6-2)当該店舗に1年以上勤務している薬剤師数	人	人
6-3)薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	人	人
6-4)健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数	人	人
6-5)かかりつけ薬剤師として届出している薬剤師数		

※常勤薬剤師数は、貴薬局で定めた就業規則に基づく勤務時間の全てを勤務する薬剤師とします。

※※非常勤薬剤師は、勤務時間が貴薬局で定める勤務時間に満たない薬剤師とします。

7. 貴薬局で2023年1月1日～12月31日間の処方箋受付回数を教えてください。()

8. 貴薬局で処方箋応需回数が最も多い医療機関が占める処方箋集中度率(%)を教えてください。()%

9. 貴薬局で届出または算定しているものがあれば教えてください。(複数回答可)

- a 地域支援体制加算 1
- b 地域支援体制加算 2
- c 地域支援体制加算 3
- d 地域支援体制加算 4
- e 服薬情報提供料1
- f 服薬情報提供料 2
- g 服薬情報提供料3
- h 特定薬剤管理指導加算 2
- i 連携強化加算
- j かかりつけ薬剤師包括管理料
- k かかりつけ薬剤師指導料
- l 無菌製剤処理加算
- m 在宅患者調剤加算
- n 在宅患者訪問薬剤管理指導料

10. その他の認定や届け出について

10.1 貴薬局では健康サポート薬局の届出を行っていますか。

- a. はい
- b. いいえ(要件を満たしていないため、届出していない)
- c. いいえ(要件は満たしているが、届出していない)

10.2 貴薬局では専門医療機関連携薬局の認定をとっていますか。

- a. はい
- b. いいえ
- c. 認定要件は有しているが、申請していない

11. 貴薬局では OTC 医薬品(要指導医薬品・一般用医薬品)の販売をしていますか？

- a. はい
- b. いいえ

11.1 OTC 医薬品を販売している場合、取り扱っている製品の品目数を教えてください。(同じ製品でも、規格や含有数が異なる物は別製品として考えるため、JAN コードが異なれば、同一の医薬品でも別物としてカウントしてください。)()品目

12. 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日で、貴薬局が開局時間外に患者や地域住民から受けた相談件数の頻度を教えてください。

- a. ほとんどない(月 1 回程度)
- b. 週 1 回程度
- c. 週 2～5 回程度
- d. 週 6 回以上

13. 夜間・休日等の開局時間外の調剤について教えてください。

13.1 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日で、貴薬局が夜間・休日等の開局時間外に患者などから調剤の求めはありましたか。

- a. なかった
- b. ほとんどない(月 1 回程度)
- c. 週 1 回程度
- d. 週 2～5 回程度
- e. 週 6 回以上

13.2 13.1 の質問で、a 以外と回答された方は、そのときどのような対応をされていますか。

- a. 主に自薬局で調剤する。
- b. 主に時間外の調剤に対応する他の薬局(夜間・休日の輪番薬局)などを紹介する。
- c. その他(自由記載)

13.3 開局時間外に、相談を応需できるようにするために、薬局への連絡先を患者や地域住民にどのような方法で周知していますか。(複数回答可)

- a. 薬剤情報提供書
- b. おくすり手帳
- c. 薬袋
- d. 自局のホームページ
- e. 行政・薬剤師等のホームページ
- f. パンフレットなど
- g. 周知していない
- h. その他(自由記載)

14. 2023 年 12 月 31 日に、貴薬局で在庫していた調剤用医薬品の品目数を教えてください。(同じ医薬品名でも、剤形、規格や含有数が異なる場合は別製品として考えるため、GS1 コードが異なれば、同一の医薬品でも別製品としてカウントしてください。)

()品目

15. 2023 年 12 月 31 日に、貴薬局で在庫していた麻薬の品目数を教えてください。(同じ医薬品名でも、剤形、規格や含有数が異なる物は別製品として考えるため、GS1コードが異なれば、同一の医薬品でも別物としてカウントしてください。)

()品目

16. 貴薬局の在庫医薬品の周知について教えてください。

16.1 貴薬局で、在庫している医薬品の情報を近隣の薬局などに周知していますか。

- a. 周知している
- b. 周知していない

16.2 16.1 の質問で、「周知している」と回答された方は、どのような方法で周知していますか。

- a. インターネットで閲覧できるようにしている
- b. 在庫一覧表を配布している
- c. その他(自由記載)

17 貴薬局は、地域連携薬局の活動について地域の薬剤師会(都道府県薬剤師会、地域薬剤師会等)と連携は取れていると思いますか

- a. 十分に取れていると思う
- b. ある程度は取れていると思う
- c. あまり十分ではないと思う
- d. 取れていないと思う
- e. 薬剤師会に加入している薬剤師はいない
- f. その他

18. 貴薬局は、地域で健康サポートや医薬品に関する教育等をおこなっていますか。(複数選択可)

- a. 薬局単独でやっている。
- b. 近隣の施設と連携してやっている
- c. 自治体と連携してやっている。
- d. やっていない

II 地域連携薬局に対する質問

1. 貴薬局が、地域連携薬局の認定を受けた年月日を教えてください。

2. 貴薬局では、地域連携薬局であることをどのように掲示・広報していますか。(複数回答可)

- a. 店内に認可証を掲示している
- b. 自作したポスターなどで地域連携薬局であることを示している
- c. 薬局の外看板などに地域連携薬局であることを示している
- d. 薬局のホームページや SNS のページに掲載している
- e. 地域の広報誌などに地域連携薬局であることを掲載した
- f. 来局者にパンフレットなどを配布した
- g. 地域住民に郵便物にて周知した
- h. 地域の医療機関に対しメール、手紙などで案内した
- i. 会議、勉強会などで地域の医療機関に周知した
- k. 地域の薬剤師会を通して地域の医療機関に周知した
- l. その他(自由記載)

3 貴薬局では、地域連携薬局であることを掲示したり、周知したりしたことで、来局者から地域連携薬局の役割や機能について質問を受けたことがありますか。

- a. 一度もない
- b. 月に1~2件
- c. 月に3~20件
- d. 月に21件以上

4. 貴薬局が地域連携薬局に認定され、その維持にかかっている費用について教えてください。

4.1 地域連携薬局に認定を受けるために必要となった通常経費以外の経費（新たに設置した備品、薬剤師の研修のための費用や交通費など（年額）、新規申請費など）の金額を教えてください。

- a. 10 万円未満
- b. 10 万円以上 50 万円未満
- c. 50 万円以上 100 万円未満
- d. 100 万円以上

4.2 地域連携薬局の認定を受けた後、地域連携薬局を維持するために、1 年間で必要となる通常経費以外の経費（薬剤師の研修のための費用や交通費など、更新申請費、備品費など）の金額を教えてください。

- a. 10 万円未満
- b. 10 万円以上 50 万円未満
- c. 50 万円以上 100 万円未満
- d. 100 万円以上

5. 貴薬局で実施している「地域包括ケアシステムに関する内容の研修」に関して教えてください。

5.1 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日に当該薬局の勤務薬剤師に行った地域包括ケアシステムに関する内容の研修回数を教えてください。

() 回

5.2 5.1 の質問で 1 回以上と回答した場合、実施した研修は、どのような方法で実施しましたか。

- a. 自施設での集合研修
- b. グループ薬局内での集合研修
- c. 外部の研修会などへの参加
- d. その他（自由記載）

6 貴薬局では、地域連携薬局に認定された後、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日に他の薬局やその他の事業所に医薬品適正使用に関する情報提供を実施した実績及び薬局数、その他の事業所の数を教えてください。

実施回数()

薬局数()

その他の事業所()

7 貴薬局が自治体と協働して行った活動実態について教えてください。

7.1 地域連携薬局に認定された後、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日に地域連携薬局に関する事由で自治体と協働して行った活動はありますか。

- a. ある
- b. ない

7.2 7.1 の質問で、「ある」と回答された方は、その回数と主な活動内容を教えてください。

() 回

主な活動内容（自由記載）

8. 貴薬局が、地域の薬剤師会（都道府県薬剤師会、地域薬剤師会等）と協働して行った活動について教えてください。

8.1 地域連携薬局に認定された後、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日に地域連携薬局に関する事由で地域の薬剤師会と協働して行った活動はありますか。

- a. ある
- b. ない

8.2 8.1 の質問で、「ある」と回答された方は、その回数と主な活動内容を教えてください。

() 回

主な活動内容（自由記載）

Ⅲ 直近の認定申請時の状況について

以下から質問には、**2023 年 12 月 31 日以前で直近**の地域連携薬局の新規認定申請もしくは**更新申請のときに使用した資料をもとに**回答してください。これから質問に出てくる“過去 1 年間”という期間は、新規申請や更新申請のときに提出した書類のときに集計した期間をさします。

1. 貴薬局が、下記の地域包括ケアシステムの構築に資する会議に参加した回数を教えてください。
 - a. 市町村又は地域包括支援センターが主催する地域ケア会議 () 回
 - b. 介護支援専門員が主催するサービス担当者会議 () 回
 - c. 多職種が参加する退院時カンファレンス () 回
 - d. その他の会議(自由記載) () 回

2. 貴薬局が地域における医療機関に勤務する薬剤師等に対して随時報告及び連絡した実績を教えてください。
 - 2.1 回数を教えてください。年間 () 回
 - 2.2 利用者が入院するに当たって情報共有を行った回数 年間 () 回
 - 2.3 外来利用者に関して情報共有を行った回数 年間 () 回
 - 2.4 医療機関からの退院に当たって情報共有を行った回数 年間 () 回
 - 2.5 在宅訪問で薬学管理を行った結果、情報共有を行った回数 年間 () 回
 - 2.6 上記の質問で報告及び連絡した実績のうち、多く報告した医療機関等の順に、上位 3 位までの報告数とその医療機関までの距離を教えてください。距離の計測は、MapFan (<https://mapfan.com/map/routes/search>)を用いて、道路の道順での距離を算定してください。

・1 位	() 回、() km
・2 位	() 回、() km
・3 位	() 回、() km
 - 2.7 上記の質問で報告及び連絡した実績のうち、最も多く報告した医療機関の職種を教えてください。
 - a. 医師
 - b. 歯科医師
 - c. 薬剤師
 - d. 看護師
 - e. 介護支援専門員
 - f. その他(自由記載)
 - 2.8 上記の質問で報告及び連絡した実績のうち、経験があるものと最も多い方法を教えてください。(以下のチェックボックスは WEB でのイメージです)

	経験あり	もっとも多い
印刷した文書(提出または郵送)で報告	☐	☐ (ラジオボタン)
電子化した文書(電子メール等)で報告	☐	☐ (ラジオボタン)
その他の方法で報告(例えば FAX)	☐	☐ (ラジオボタン)
緊急時の電話連絡	☐	☐ (ラジオボタン)

3. 夜間・休日等の開局時間外の過去 1 年間の調剤の実績及びその日数を教えてください。

調剤実績	() 回
開局日数	() 日

4. 他の薬局開設者の薬局に対し、過去 1 年間の医薬品提供した回数について教えてください。

4.1 在庫として保管する医薬品を必要な場合に他の薬局開設者の薬局に提供した過去 1 年間の医薬品提供の回数を教えてください。

提供回数 () 回

4.2 4.1 で医薬品の提供を行った薬局のうち、上位 3 位までの提供回数とその薬局までの距離を教えてください。距離の計測は、MapFan (<https://mapfan.com/map/routes/search>)を用いて、道路の道順での距離を算定してください。

・1 位 () 回、() km

・2 位 () 回、() km

・3 位 () 回、() km

5. 貴薬局における麻薬の過去 1 年間の調剤の実績を教えてください。

調剤実績 () 回

6. 貴薬局の無菌製剤処理を実施できる体制について教えてください。

6.1 無菌製剤処理を実施できる体制として用意しているものはどれですか。

a. 自局で対応

b. 共同利用による対応

c. 他の薬局の紹介

d. その他(自由記載)

6.2 無菌製剤処理を他の薬局で実施するとき、主に依頼する薬局までの距離を教えてください。距離の計測は、MapFan (<https://mapfan.com/map/routes/search>)を用いて、道路の道順での距離を算定してください。

() km

6.3 無菌製剤処理の過去 1 年間の調剤の実績を教えてください。

調剤実績 () 件

そのうち、自薬局で実施した件数() 件、共同利用施設で実施した件数() 件、他の薬局を紹介した件数() 件

7. 貴薬局が、医療安全対策として報告した以下のものについて、報告回数を教えてください。

・医薬品に係る副作用等の報告回数 () 回

・薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業への参加の報告回数 () 回

8. 地域包括ケアシステムに関する研修を修了した常勤薬剤師について教えてください。

・研修を修了した常勤薬剤師数 () 人

9. 貴薬局の薬剤師が受講した「健康サポート薬局研修」の主催機関及び受講者数を教えてください。

・公益社団法人 日本薬剤師会・公益財団法人日本薬剤師研修センター () 人

・特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects for Women () 人

・一般社団法人 日本保険薬局協会 () 人

・一般社団法人 上田薬剤師会 () 人

・一般社団法人 薬局共創未来人財育成機構 () 人

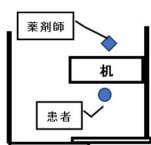
・一般社団法人 日本薬業研修センター () 人

・一般社団法人 イオン・ハピコム人材総合研修機構 () 人

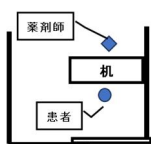
・その他 () 人

10. 居宅等における調剤並びに情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の実績を教えてください。
- 10.1 実施回数 年間 ()回
 - 10.2 過去 1 年間に居宅等における調剤並びに情報の提供及び薬学的知見に基づく指導を行った患者総数 ()人
 - 10.3 居宅の件数()件
 - 10.4 施設の件数()件
 - 10.5 居宅等における調剤並びに情報の提供及び薬学的知見に基づく指導において、平均的な 1 回の訪問にかかる滞在時間を教えてください。
 - a. 10 分未満
 - b. 10 分以上 30 分未満
 - c. 30 分以上 1 時間未満
 - d. 1 時間以上
 - 10.6 居宅等におけるすべての実績で、居宅療養管理指導もしくは在宅患者訪問薬剤管理指導料、在宅患者緊急訪問薬剤管理指導料を算定していますか。
 - a. 全件算定している
 - b. 一部算定している
 - c. 全件算定していない
- 11 貴薬局が、地域連携薬局の要件を満たすにあたり、下記の要件の中で、苦勞された点があれば教えてください。(複数回答可)
- a. 構造設備に関する要件
 - b. 他医療提供施設との情報連携体制に関する要件
 - c. 地域における薬剤の安定供給体制に関する要件
 - d. 在宅医療体制に関する要件
 - e. 従事する保険薬剤師に関する要件
 - f. 書類の準備や作成に苦勞した
 - g. その他(自由記載)
 - h. 苦勞するところはなかった

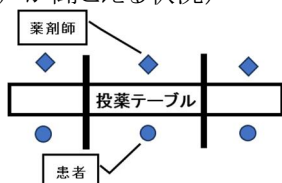
- 12 貴薬局において、利用者の服薬指導等の際に配慮した構造設備(説明環境)は、下記のどちらになりますか。
- a 天井まで遮蔽され壁で覆われている完全個室(他人の目に触れることはなく、隣の話し声が聞こえにくい状況)



- b パーティションなどで他の患者と区分された半個室のブース(壁が天井まで覆われていない)ブース(他人の目に触れることはないが、隣の話し声が聞こえる状況)



- c 投薬カウンターに、隣の患者とパーティションで分けられ、患者や顧客が着座できるスペース(他人の目に触れ、隣の話し声が聞こえる状況)



- d その他(自由記載)

13. 貴薬局における、地域連携薬局の認定要件について教えてください。
- 13.1 構造設備に関する要件を満たすためにハードルが高かった内容があれば教えてください。
- 相談内容が漏洩しないよう配慮した設備の設置が難しかった
 - 座って服薬指導を受ける設備の設置が難しかった
 - 高齢者、障害者等の円滑な利用に適した構造の設置が難しかった
 - 無菌製剤処理を実施できる体制の設置が難しかった
 - その他(自由記載)
 - ハードルが高いと思われる要件はなかった

13.2 13.1 の質問で a～e と回答した方にお聞きします。構造設備に関する要件を満たすことが難しかった理由があれば教えてください

- 設置するスペースの確保が難しかった
- 設置するための金銭面の確保が難しかった
- どのような設備を設置すればよいかわからなかった
- その他(自由記載)

13.3 他医療提供施設との情報連携体制に関する要件(医療機関の薬剤師等へ対する月平均 30 回以上の報告・連絡実績の確保)を満たすためにハードルが高かった内容があれば教えてください。(複数回答可)

- 入院・退院に関する情報提供に関して、医療機関からの求めや情報提供がないと薬局からの情報提供が難しく、実績の確保が難しかった
- 外来患者の情報提供についてどのような内容を提供すればよいかわからず実績の確保が難しかった
- 居宅等の実績がない、もしくは少ないため情報提供の実績確保が難しかった
- いずれの情報提供についても情報提供先がどのような情報を必要としているのかわからず情報提供することが難しかった
- その他(自由記載)
- ハードルが高いと思われる要件はなかった

13.4 地域における薬剤の安定供給体制に関する要件を満たすためにハードルが高かった内容があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 夜間・休日等の時間外対応の体制の確立が難しかった
- b. 麻薬の調剤応需体制の確立が難しかった
- c. 他薬局への医薬品の提供や情報提供体制の確立が難しかった
- d. 高度管理医療機器販売業の取得が難しかった
- e. 医療材料・衛生材料の提供体制の確立が難しかった
- g. その他(自由記載)
- h. ハードルが高いと思われる要件はなかった

13.5 在宅医療体制に関する要件を満たすためにハードルが高かった内容があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 月平均 2 回以上の在宅医療実績数の確保が難しかった。
- b. 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加が難しかった。
- c. その他(自由記載)
- d. ハードルが高いと思われる要件はなかった。

13.6 13.5 の質問で「a.月平均 2 回以上の在宅医療実績数の確保が難しかった。」と回答された方への質問です。その理由を教えてください。

- a. 居宅等のサービス提供実績がない、もしくは少ないため。
- b. 居宅等サービスを提供している患者は複数名いるが、同一施設に入所しているため。
- c. その他(自由記載)

13.7 13.5 の質問で「b. 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加が難しかった。」と回答された方への質問です。その理由を教えてください。(複数回答可)

- a. 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加実績がこれまでになく、どのように参加すればよいかわからなかった。
- b. どのような会議が地域包括ケアシステムの構築に資する会議にあたるのかわからなかった。
- c. 薬局のマンパワーの問題で地域包括ケアシステムの構築に資する会議へ参加するのが困難だった。
- d. 開催日時(曜日、時間帯)が薬局の営業時間等と合わず、地域包括ケアシステムの構築に資する会議へ参加するのが困難だった。
- e. その他(自由記載)

13.8 従事する薬剤師に関する要件を満たすためにハードルが高かった内容があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 常勤薬剤師の半数以上が 1 年以上常勤として勤務するのが難しかった。
- b. 常勤薬剤師の半数以上が健康サポート薬局研修を修了しているのが難しかった。
- c. すべての薬剤師が地域包括ケアシステムに係る内容が学習できる研修を毎年継続的に受講するのが難しかった。
- d. その他(自由記載)

13.9 13.8 の質問で「b. 常勤薬剤師の半数以上が健康サポート薬局研修を修了しているのが難しかった。」と回答された方への質問です。その理由を教えてください。(複数回答可)

- a. 薬局間で人事異動があるため、常時、「常勤薬剤師の半数以上」という認定条件を維持できない。
- b. 「健康サポート薬局研修」が、いつ、どこで行われているのかなどの研修開講の情報を知る手段が分からなかった。
- c. 「健康サポート薬局研修」の開催回数が不足していて、応募したかったが参加できなかった。
- d. その他(自由記載)

13.10 医療安全対策に関する要件を満たすことが難しかった理由があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 「医薬品に係る副作用等の報告」を行う対象患者があらわれなかった。
- b. 「医薬品に係る副作用等の報告」を行う方法が分からなかった。
- c. 薬局ヒヤリ・ハットに該当する事例がなかった。
- d. 薬局ヒヤリ・ハット事例の具体的な報告方法が分からなかった。
- e. その他(自由記載)
- f. 困難であると思われる要件はなかった。

14. 貴薬局で、地域連携薬局に認定される前後で、管理薬剤師としての業務に変化が生じたと感じますか。

- a. 大いに感じる
- b. やや感じる
- c. まったく感じない

15. 貴薬局で地域連携薬局に認定される前後で、管理薬剤師としてのやりがいに変化が生じたと感じますか。

- a. 大いにやりがいを感じている
- b. やりがいやや増した
- c. 認定前後で、やりがいは変わらない
- d. やりがいやや減った
- e. やりがいととも減った

16 貴薬局で地域連携薬局に認定される前後で、他の医療機関から求められることは変わりましたか。

- a. 多くの依頼や相談などをうけるようになった
- b. 前よりも、依頼や相談などをうけるようになった
- c. 変わらない
- d. 依頼や相談などは減った

17 貴薬局で地域連携薬局に認定される前後で、患者や地域住民から求められることは変わりましたか。

- a. 多くの依頼や相談などをうけるようになった
- b. 前よりも、依頼や相談などをうけるようになった
- c. 変わらない
- d. 依頼や相談などは減った

18. 貴薬局で地域連携薬局に認定されたことのメリットについて教えてください。

18.1 認定を受けていない他の薬局と比較して業務や待遇などの面でメリットを感じることはありますか。

- a. 大いに感じる
- b. やや感じる
- c. まったく感じない
- d. デメリットをやや感じる
- e. デメリットをととも感じる

18.2 18.1 の質問で、「大いに感じる」、「やや感じる」と回答された方は、どういったことに関して、メリットを感じていますか。(複数回答可)

- a. 来局患者数が増えた
- b. 在宅医療の依頼が増えた
- c. 地域の薬局や医療施設に勤める薬剤師に対して指導的立場になることができた
- d. 給与が増加した
- e. その他(自由記載)

19. 貴薬局の地域連携薬局としての機能が利用者からどの程度理解されていると思いますか。

選択肢: 十分に理解されている。やや理解されている、どちらでもない、あまり理解されていない、理解されていない

- a. 構造設備にも配慮し、患者さんが利用しやすい薬局である。
- b. 服薬指導を行う際に周りに会話が漏れないよう、パーティションで区切ったり、個室を用意している。
- c. 高度で専門的な薬学管理を必要な患者さんに対応可能な薬局である。
- d. 地域の医療機関と必要なときにいつでも連携できる体制を整えられた薬局である。
- e. 情報提供を求められた場合には、速やかに応じられる薬局である。
- f. 地域包括ケアシステムの構築に関する会議に参加し、多職種の医療従事者と連携を取っている薬局である。
- g. 営業時間外(休日や夜間)でも要望があれば調剤に応じる薬局である。
- h. 休日や夜間でも調剤していること掲示している薬局である。
- i. 在宅医療を行える環境を整えている薬局である。
- j. 薬学的知見に基づいた在宅での指導を実施した実績を提示している薬局である。

20. 地域連携薬局の申請要件として、の資格取得について教えてください。

20.1 専門医療機関連携薬局のように、勤務薬剤師に学会公認の専門薬剤師などの資格の取得を求めるべきであると思いますか

- a. 思う
- b. 思わない

20.2 20.1の質問で、「思う」と回答された方は、その理由を教えてください。(複数回答可)

- a. 地域連携薬局は、専門医療機関連携薬局と同等の薬局機能と薬剤師の資質が求められると思うから
- b. 地域連携薬局の申請要件の薬剤業務は、申請を出さなくても実施できるものであり、地域連携薬局を冠する意義を示し、他の薬局との差別化を行うために必要であるから
- c. その他(自由記載)

20.3 20.1の質問で、「思う」と回答された方は、どの分野の専門性が必要であると思いますか。(複数回答可)

- a. 在宅療養支援認定薬剤師(日本在宅薬学会)
- b. 地域薬学ケア専門薬剤師(日本医療薬学会)
- c. 医療薬学専門薬剤師(日本医療薬学会)
- d. 緩和薬物療法認定薬剤師(日本緩和医療薬学会)
- e. 腎臓病薬物療法専門薬剤師(日本腎臓病薬物療法学会)
- f. 認定薬剤師(日本臨床薬理学会)
- g. 災害医療認定薬剤師(日本集団災害医学会)
- h. 公認スポーツファーマシスト(日本アンチドーピング機構)
- i. その他(自由記載)

20.3 20.1の質問で、「思わない」と回答された方は、その理由を教えてください。(複数回答可)

- a. 学会公認の専門薬剤師などの資格を取得するのは、困難であるから。
- b. 地域医療を行う上で、学会公認の専門薬剤師などの資格は不要であるから。
- c. その他(自由記載)

21. 地域連携薬局の制度をより良いものにするためには、どのような取り組みやルールが必要であると考えますか。
(自由記載)

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

引き続き、専門医療機関連携薬局を利用している患者さんに対しても、専門医療機関連携薬局の認知度や期待する専門職能などを調査したいと考えています。

薬局を利用している患者さんに対するアンケートにご協力いただける場合にはチェックをいれてください。(ご協力いただける場合はおって詳細を説明させていただきます。)

患者さんのアンケートに協力できる ☐

(資料2) 地域連携薬局の認定を受けていない薬局への調査票

●対象

2023 年 12 月 31 日までに地域連携薬局の認定を受けていない薬局(新規・更新)の管理薬剤師

アンケート調査の趣旨

超高齢社会の日本におけるこれからの地域医療を考えたとき、地域包括ケアシステムの機能を十分に発揮させる必要があります。地域薬局は、地域包括ケアシステムの中核を担うことが期待されておりますが、そのためには、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局などの認定薬局が地域において十分な機能を十分に果たすことが求められます。認定薬局の数は増えてきておりますが、認定取得後、地域で具体的にどのような活動をしており、地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかについては学会等で断片的な情報が公開されているにとどまっています。

そこで、令和 5 年度厚生労働省科学研究費により、「地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究」を実施することとなりました。この研究では、認定を受けている、すべての地域連携薬局(約 3900)、専門医療機関連携薬局(約 170)を対象に、地域活動の現状および地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかの調査を行うこととなりました。あわせて、現在地域連携薬局の認定を受けていない薬局に対しても調査を行い、認定要件の課題を抽出することを目的としております。

今回の調査対象は 2023 年 12 月 31 日までに地域連携薬局の認定を受けていない薬局(各県から 10 薬局をランダムに選択)に対して、この質問票を送付しています。

○調査内容

- ・以下の調査項目にご回答いただきます。
薬局の基本情報について、地域連携薬局以外への質問事項

○調査への参加について

- ・本調査への参加(web への入力)は任意です。
- ・本調査に参加すること、および参加しないことにより、いかなる不利益を受けることはありません。
- ・また、本調査に参加することによるリスクは認められていません。
- ・最終確認前にブラウザを閉じれば、いつでも参加を中止することができます。
- ・回答にはおよそ 30 分程度の時間がかかると想定されます。

○調査画面の入力と個人情報の保護、データの保管について

- ・入力したデータをもとに薬局・企業名を特定することはありません。
- ・調査結果は取りまとめの上、公表することがございますが、取りまとめ及び公表に際して、個別の薬局名・企業名が特定できる記載は一切行いません。
- ・入力されたデータは、城西国際大学と業務委託契約締結した調査会社の保有するサーバー上に保管されますが、データの保守には十分配慮されます。

○解析用のデータはセキュリティ機能のある USB メモリーの中に保管され、厚生労働省への報告後5年間保管された後に物理的に破壊することで破棄される。

なお、本調査研究は、城西国際大学人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を受けております。(承認番号 07F230040)

本調査の本調査研究の重要性をご理解頂きご回答いただきますようお願いいたします。

なお、本研究の研究班は以下のメンバーで構成されています。

実施責任者 城西国際大学・薬学部・特任教授 山村重雄
東京大学大学院・薬学研究科・医薬政策学講座・特任研究員 岡崎光洋
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・教授 藤 秀人
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・客員助教 友成 真理
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・協力研究員 藤岡 孝志

学校法人昭和大学・薬学部社会健康薬学講座 社会薬学部門客員教授 倉田なおみ
城西国際大学・看護学部・教授 四十竹美千代
一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会・代表理事 吉岡優子

研究責任者の連絡先

城西国際大学薬学部 特任教授 山村重雄
〒283-8555 千葉県東金市求名 1
電話:0485-53-4544 s_yama@jiu.ac.jp

研究責任者の連絡先

城西国際大学薬学部 特任教授 山村重雄
〒283-8555 千葉県東金市求名 1
電話:0485-53-4544 s_yama@jiu.ac.jp

城西国際大学と業務委託した調査会社

株式会社矢野経済研究所 PSU1 武田浩二
〒164-8620 東京都中野区本町 2-46-2 中野坂上セントラルビル
電話:03-5371-6925 ktakeda@yano.co.jp

SC1. 上記の内容に同意いただける場合は、「同意する」を選んでアンケートへお進みください。

- 3. 同意する
- 4. 同意しない

管理薬剤師として勤務する薬局について、下記の質問に回答してください。

I 薬局の基本情報について

1. 同一グループ(財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局)の店舗数(貴薬局を含む)で当てはまるものを選択してください。

- g. 1 店舗
- h. 複数店舗(2～5 店舗未満)
- i. 複数店舗(5～20 店舗未満)
- j. グループ(20 店舗以上 50 店舗未満)
- k. グループ(50 店舗以上 300 店舗未満)
- l. グループ(300 店舗以上)

2. 貴薬局の所在地を教えてください。
都道府県で選択する。

3 貴薬局周辺の公共交通機関の運行状況について教えてください。

- a. 正午時間帯に 15 分以内の間隔で運行している。
- b. 正午時間帯に 30 分以内の間隔で運行している。
- c. 正午時間帯に 60 分以内の間隔で運行している。
- d. 正午時間帯にほとんど運航されておらず、自家用車など交通手段が必要である。
- e. その他

4. 貴薬局の立地の状況を教えてください。

- h. 診療所の敷地内または周辺
- i. 大病院(400 床以上)の敷地内または周辺
- j. 中小病院(400 床未満)の敷地内または周辺
- k. 同一ビル内に複数の医療施設(医療モール)
- l. 同一ビル内に単一の医療機関
- m. 同一敷地内に複数の医療機関(医療ビレッジ)

n. その他(記述)

5. 貴薬局の開局からの年数を教えてください。()年

6. 貴薬局に勤務している薬剤師数(常勤、非常勤を含む)を教えてください。

	常勤薬剤師	非常勤薬剤師
6-1)当該店舗に勤務する薬剤師数 (休職中の者も含む)	人	人
6-2)当該店舗に1年以上勤務している薬剤師数	人	人
6-3)薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	人	人
6-4)健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数	人	人
6-5)かかりつけ薬剤師として届出している薬剤師数		

※常勤薬剤師数は、貴薬局で定めた就業規則に基づく勤務時間の全てを勤務する薬剤師とします。

※※非常勤薬剤師は、勤務時間が貴薬局で定める勤務時間に満たない薬剤師とします。

7. 貴薬局で2023年1月1日～12月31日間の処方箋受付回数を教えてください。()

8. 貴薬局で処方箋応需回数が最も多い医療機関が占める処方箋集中率(%)を教えてください。()%

9. 貴薬局で届出または算定しているものがあれば教えてください。(複数回答可)

- a 地域支援体制加算 1
- b 地域支援体制加算 2
- c 地域支援体制加算 3
- d 地域支援体制加算 4
- e 服薬情報提供料1
- f 服薬情報提供料 2
- g 服薬情報提供料3
- h 特定薬剤管理指導加算 2
- i 連携強化加算
- j かかりつけ薬剤師包括管理料
- k かかりつけ薬剤師指導料
- l 無菌製剤処理加算
- m 在宅患者調剤加算
- n 在宅患者訪問薬剤管理指導料

10. その他の認定や届け出について

10.1 貴薬局では健康サポート薬局の届出を行っていますか。

- a. はい
- b. いいえ(要件を満たしていないため、届出していない)
- c. いいえ(要件は満たしているが、届出していない)

10.2 貴薬局では専門医療機関連携薬局の認定をとっていますか。

- a. はい
- b. いいえ
- c. 認定要件は有しているが、申請していない

11. 貴薬局では OTC 医薬品(要指導医薬品・一般用医薬品)の販売をしていますか？

- a. はい

b. いいえ

11.1 OTC 医薬品を販売している場合、取り扱っている製品の品目数を教えてください。(同じ製品でも、規格や含有数が異なる物は別製品として考えるため、JAN コードが異なれば、同一の医薬品でも別物としてカウントしてください。)()品目

12. 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日で、貴薬局が開局時間外に患者や地域住民から受けた相談件数の頻度を教えてください。

- a. ほとんどない(月 1 回程度)
- b. 週 1 回程度
- c. 週 2～5 回程度
- d. 週 6 回以上

13. 夜間・休日等の開局時間外の調剤について教えてください。

13.1 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日で、貴薬局が夜間・休日等の開局時間外に患者などから調剤の求めはありましたか。

- a. なかった
- b. ほとんどない(月 1 回程度)
- c. 週 1 回程度
- d. 週 2～5 回程度
- e. 週 6 回以上

13.2 13.1 の質問で、a 以外と回答された方は、そのときどのような対応をされていますか。

- a. 主に自薬局で調剤する。
- b. 主に時間外の調剤に対応する他の薬局(夜間・休日の輪番薬局)などを紹介する。
- c. その他(自由記載)

13.3 開局時間外に、相談を応需できるようにするために、薬局への連絡先を患者や地域住民にどのような方法で周知していますか。(複数回答可)

- a. 薬剤情報提供書
- b. おくすり手帳
- c. 薬袋
- d. 自局のホームページ
- e. 行政・薬剤師等のホームページ
- f. パンフレットなど
- g. 周知していない
- h. その他(自由記載)

14. 2023 年 12 月 31 日に、貴薬局で在庫していた調剤用医薬品の品目数を教えてください。(同じ医薬品名でも、剤形、規格や含有数が異なる場合は別製品として考えるため、GS1 コードが異なれば、同一の医薬品でも別製品としてカウントしてください。)

()品目

15. 2023 年 12 月 31 日に、貴薬局で在庫していた麻薬の品目数を教えてください。(同じ医薬品名でも、剤形、規格や含有数が異なる物は別製品として考えるため、GS1コードが異なれば、同一の医薬品でも別物としてカウントしてください。)

()品目

16. 貴薬局の在庫医薬品の周知について教えてください。

16.1 貴薬局で、在庫している医薬品の情報を近隣の薬局などに周知していますか。

- a. 周知している
- b. 周知していない

16.2 16.1 の質問で、「周知している」と回答された方は、どのような方法で周知していますか。

- a. インターネットで閲覧できるようにしている
- b. 在庫一覧表を配布している
- c. その他(自由記載)

17 貴薬局は、地域連携薬局の活動について地域の薬剤師会(都道府県薬剤師会、地域薬剤師会等)と連携は取れていると思いますか

- a 十分に取れていると思う
- b ある程度は取れていると思う
- c あまり十分ではないと思う
- d 取れていないと思う
- e 薬剤師会に加入している薬剤師はいない
- f その他

18. 貴薬局は、地域で健康サポートや医薬品に関する教育等をおこなっていますか。(複数選択可)

- a. 薬局単独でやっている。
- b. 近隣の施設と連携してやっている
- c 自治体と連携してやっている。
- d やっていない

地域連携薬局以外への質問事項

1. 2023 年 12 月 31 日時点で、貴薬局の地域連携薬局の認定に関する意向について教えてください。

- a. 現在、認定申請を行っている
- b. これから認定申請を行う予定である
- c. 認定申請の予定がない

1.1 「認定申請の予定がない」と回答された方にお聞きます。認定を申請しない理由を教えてください。

- a. 求められる認定要件をクリアできないため
- b. 求められる認定要件はクリアできるが、認定申請を行う意向がないため
- c. その他(自由記載)

1.2 1.1 で b と回答した方に、伺います。認定申請を行う意向がない理由をお聞かせください。(自由記載)

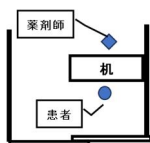
2. 貴薬局の構造設備(説明環境)について教えてください。

2.1 利用者の服薬指導等の際に配慮した構造設備(説明環境)は、有していますか。

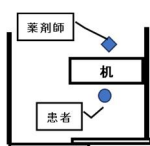
- a. はい
- b. いいえ

2.2 2.1 で「はい」と答えた方にお聞きます。利用者の服薬指導等の際に配慮した構造設備(説明環境)は、下記のどちらになりますか。

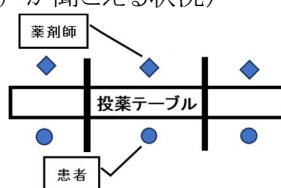
a 天井まで遮蔽され壁で覆われている完全個室(他人の目に触れることはなく、隣の話し声が聞こえにくい状況)



b パーティションなどで他の患者と区分された半個室のブース(壁が天井まで覆われていない)ブース(他人の目に触れることはないが、隣の話し声が聞こえる状況)



c 投薬カウンターに、隣の患者とパーティションで分けられ、患者や顧客が着座できるスペース(他人の目に触れ、隣の話し声が聞こえる状況)



d その他(自由記載)

3. 貴薬局が、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日に実施した夜間・休日等の開局時間外の調剤の実績及びその開局時間を教えてください。

調剤実績 () 回
開局時間 () 時間

4. 貴薬局が、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日に在庫として保管する医薬品を必要な場合に他の薬局開設者の薬局に提供した医薬品提供の実績を教えてください。

調剤実績 () 回

5. 貴薬局の麻薬の過去1年間の調剤の実績を教えてください。

調剤実績 () 回

6. 貴薬局の在宅医療への取り組みについて教えてください。

6.1 在宅医療(在宅患者訪問薬剤管理指導料・居宅療養管理指導費を算定せず通常の外来調剤を実施する在宅患者の場合も含む)を実施していますか。

- a. 実施している。
- b. 実施していない。

6.2 6.1の質問で「実施している」と回答した方にお伺いします。2023年1月1日から12月31日まで在宅医療を行った人数を場所ごとに教えてください。

- ・患者宅 ()人
- ・介護施設の施設 ()人

6.3 6.1の質問で「実施している」と回答した方にお伺いします。居宅等におけるすべての実績で、居宅療養管理指導もしくは在宅患者訪問薬剤管理指導料、在宅患者緊急訪問薬剤管理指導料を算定していますか。

- a. 全件算定している。
- b. 一部算定している。
- c. 全件算定してない。

7. 貴薬局が、地域連携薬局の申請をする際、下記の要件の中で、要件を満たすのに苦労されている(と思われる)要件があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 構造設備に関する要件
- b. 他医療提供施設との情報連携体制に関する要件
- c. 地域における薬剤の安定供給体制に関する要件
- d. 在宅医療体制に関する要件
- e. 従事する保険薬剤師に関する要件
- f. その他(自由記載)
- g. 書類の準備や作成に苦労した
- h. 苦労するところはない
- i. 申請の予定はない

8. 貴薬局が、地域連携薬局の要件のうち構造設備に関する要件を満たすためにハードルが高いと思う内容があれば教えてください。

- a. 相談内容が漏洩しないよう配慮した設備の設置が難しい
- b. 座って服薬指導を受ける設備の設置が難しい
- c. 高齢者、障害者等の円滑な利用に適した構造の設置が難しい
- d. 無菌製剤処理を実施できる体制の設置が難しい
- e. その他(自由記載)
- f. ハードルが高いと思われる要件はない
- g. 申請の予定はない

8.1 8の質問で「a～e」と回答した方にお伺いします。構造設備に関する要件を満たすことが難しいと思う理由があれば教えてください。

- a. 設置するスペースの確保が難しい
- b. 設置するための金銭面の確保が難しい
- c. どのような設備を設置すればよいかわからない
- d. その他(自由記載)

9. 貴薬局が、地域連携薬局の要件のうち、他医療提供施設との情報連携体制に関する要件(医療機関の薬剤師等へ対する月平均30回以上の報告・連絡実績の確保)を満たすためにハードルが高いと思う内容があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 入院・退院に関する情報提供に関して、医療機関からの求めや情報提供がないと薬局からの情報提供が難しく、実績の確保が難しい。
- b. 外来利用者の情報提供についてどのような内容を提供すればよいかわからず実績の確保が難しい。
- c. 居宅等の実績がないもしくは少ないため情報提供の実績確保が難しい。
- d. いずれの情報提供についても情報提供先がどのような情報を必要としているのかわからず情報提供することが難しい。
- e. その他(自由記載)
- f. ハードルが高いと思われる要件はない。
- g. 申請の予定はない

10. 貴薬局が、地域連携薬局の要件のうち、地域における薬剤の安定供給体制に関する要件を満たすためにハードルが高いと思う内容があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 時間外や夜間・休日対応の体制の確立が難しい
- b. 麻薬の調剤応需体制の確立が難しい
- c. 他薬局への医薬品や情報提供体制の確立が難しい
- d. 高度管理医療機器販売業の取得が難しい
- e. 衛生材料の提供体制の確立が難しい
- f. その他(自由記載)
- g. ハードルが高いと思われる要件はない
- h. 申請の予定はない

11. 貴薬局が、地域連携薬局の要件のうち、在宅医療体制に関する要件を満たすためにハードルが高いと思う内容があれば教えてください。(複数回答可)

- a. 月平均2回以上の在宅医療実績数の確保が難しい
- b. 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加が難しい
- c. その他(自由記載)
- d. ハードルが高いと思われる要件はない
- e. 申請の予定はない

11.1 11の質問で「a.月平均2回以上の在宅医療実績数の確保が難しい。」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。

- a. 居宅等のサービス提供実績が無いもしくは少ないため
- b. 居宅療養サービスを提供している患者は複数名いるが、同一施設に入所しているため
- c. その他(自由記載)

11.2 11.1の質問で「b. 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加が難しい。」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。

- a. 地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加実績がこれまでになく、どのように参加すればよいかわからない。
- b. どのような会議が地域包括ケアシステムの構築に資する会議にあたるのかわからない。
- c. 薬局のマンパワーの問題で地域包括ケアシステムの構築に資する会議へ参加するのが困難である。
- d. 開催日時(曜日、時間帯)が薬局の営業時間等と合わず、地域包括ケアシステムの構築に資する会議へ参加するのが困難である。
- e. その他(自由記載)

12 貴薬局が、地域連携薬局の要件のうち、従事する保険薬剤師に関する要件を満たすためにハードルが高いと思う内容があれば教えてください。(複数回答可)

- e. 常勤薬剤師の半数以上が1年以上常勤として勤務するのが難しい。
- f. 常勤薬剤師の半数以上が健康サポート薬局研修を修了しているのが難しい。
- g. 薬事に関するすべての薬剤師が地域包括ケアシステムに係る内容が学習できる研修を毎年継続的に受講するのが難しい。
- h. その他(自由記載)
- e. 申請の予定はない
- i.

- 12.1 12 の質問で「b. 常勤薬剤師の半数以上が健康サポート薬局研修を修了しているのが難しい。」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。
- e. 薬局間で人事異動があるため、常時、「常勤薬剤師の半数以上」という認定条件を維持できない。
 - f. 「健康サポート薬局研修」が、いつ、どこで行われているのかなどの研修開講の情報を知る手段が分からない。
 - g. 「健康サポート薬局研修」の開催回数が不足していて、応募したかったが参加できない。
 - h. その他(自由記載)

13. 貴薬局が地域連携薬局の要件のうち、医療安全対策に関する要件を満たすことが難しいと思う理由があれば教えてください。

- a. 「医薬品に係る副作用等の報告」を行う対象者があられない。
- b. 医薬品に係る副作用等の報告」を行う方法が分からない。
- c. 薬局ヒヤリ・ハットになる事例がない。
- d. 薬局ヒヤリ・ハット事例の具体的な報告方法が分からない。
- e. その他(自由記載)
- f. 困難であると思われる要件はない。
- g 申請の予定はない

14. 2023 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間における地域包括ケアシステムの構築に資する会議への参加状況を教えてください。

14.1 下記の地域包括ケアシステムの構築に資する会議に参加したことはありますか。

市町村又は地域包括支援センターが主催する地域ケア会議
介護支援専門員が主催するサービス担当者会議
退院時カンファレンス

- a. ある
- b. ない

14.2 14.1 の質問で「ある」と回答した方にお伺いします。それぞれの会議に参加した回数を教えてください。

- a. 市町村又は地域包括支援センターが主催する地域ケア会議 () 回
- b. 介護支援専門員が主催するサービス担当者会議 () 回
- c. 退院時カンファレンス () 回
- d. その他の会議(自由記載) () 回

15. 貴薬局が、2023 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに行った地域の医療機関に勤務する薬剤師等に対して随時報告及び連絡を書面やメールなど記録に残る方法で実施した実績を教えてください。

- 15.1 全数(年間) () 回
- 15.2 入院時(年間) () 回
- 15.3 外来受診時(年間) () 回
- 15.4 退院時(年間) () 回
- 15.5 在宅訪問時(年間) () 回

15.6 15.1 の質問において報告及び連絡した実績のうち、多く報告した医療機関等の順に、上位 3 位までの報告数を教えてください。

- ・1 位 () 回
- ・2 位 () 回
- ・3 位 () 回

16. 貴薬局の無菌製剤処理について教えてください。
- 16.1 無菌製剤処理を実施できる体制はありますか。
- 無菌室がある
 - クリーンルームがある
 - ない
- 16.2 16.1 の質問で「ある」と回答された方に伺います。無菌製剤処理を実施できる場所はどちらになりますか。
- 自局で対応
 - 共同利用による対応
 - 他の薬局の紹介
 - その他(自由記載)
17. 貴薬局が、2023 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に行った医療安全対策として報告した回数を教えてください。
- 17.1 医薬品に係る副作用等の報告回数 () 回
- 17.2 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業への参加の報告回数 () 回
- 18 貴薬局の常勤薬剤師数および「健康サポート薬局研修」に関する研修を修了した常勤として勤務している薬剤師について教えてください。
- ・研修を修了した常勤薬剤師数 () 人
- 19 貴薬局の常勤薬剤師が受講した「健康サポート薬局研修」の主催機関及び受講者数を教えてください。
- ・公益社団法人 日本薬剤師会・公益財団法人日本薬剤師研修センター () 人
 - ・特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects for Women () 人
 - ・一般社団法人 日本保険薬局協会 () 人
 - ・一般社団法人 上田薬剤師会 () 人
 - ・一般社団法人 薬局共創未来人財育成機構 () 人
 - ・一般社団法人 日本薬業研修センター () 人
 - ・一般社団法人 イオン・ハピコム人材総合研修機構 () 人
 - ・その他 () 人
- 20 貴薬局が、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日間に、居宅等における調剤並びに情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の実績を教えてください。
- 20.1 情報提供の回数 () 回
- 20.2 20.1 の内、居宅等における調剤並びに情報の提供及び薬学的知見に基づく指導を行った患者総数を教えてください。() 人

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(資料3) 専門医療機関連合薬局の現状に関する調査票

アンケート調査の趣旨

超高齢社会の日本におけるこれからの地域医療を考えたとき、地域包括ケアシステムの機能を十分に発揮させる必要があります。地域薬局は、地域包括ケアシステムの中核を担うことが期待されておりますが、そのためには、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局などの認定薬局が地域において十分な機能を十分に果たすことが求められます。認定薬局の数は増えてきておりますが、認定取得後、地域で具体的にどのような活動をしており、地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかについては学会等で断片的な情報が公開されているにとどまっています。

そこで、令和 5 年度厚生労働省科学研究費により、「地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究」を実施することとなりました。この研究では、認定を受けている、すべての地域連携薬局(約 3900)、専門医療機関連携薬局(約 170)を対象に、地域活動の現状および地域住民の健康な生活維持にどのような役割を果たしているかの調査を行うこととなりました。

今回の調査対象は 2023 年 12 月 31 日までに専門医療機関連携薬局の認定を受けている薬局(新規・更新)の管理薬剤師となります。管理薬剤師と「がん専門薬剤師」が異なる場合には、V 貴薬局に勤務する外来がん治療専門薬剤師または地域薬学ケア専門薬剤師(がん)についての質問は「がん専門薬剤師」の方にお答え頂ければと思います。

質問は 41 項目あり、いくつかはさらに小項目に分かれております。すべてを回答するのにおよそ 30-45 分程度の時間がかかるかと思われます。

この質問票で「がん専門薬剤師」とは、日本臨床腫瘍用薬学会の外来がん治療専門薬剤師または日本医療薬学会の地域薬学ケア専門薬剤師の認定を受けた薬剤師を指します。

○調査内容

・以下の調査項目にご回答いただきます。

薬局の基本情報、設備、報告実績、教育体制、がん専門薬剤師について

○調査への参加について

- ・本調査への参加(web への入力)は任意です。
- ・本調査に参加すること、および参加しないことにより、いかなる不利益を受けることはありません。
- ・また、本調査に参加することによるリスクは認められていません。
- ・最終確認前にブラウザを閉じれば、いつでも参加を中止することができます。

○調査画面の入力と個人情報の保護、データの保管について

- ・入力したデータをもとに薬局・企業名を特定することはありません。
- ・調査結果は取りまとめの上、公表することがございますが、取りまとめ及び公表に際して、個別の薬局名・企業名が特定できる記載は一切行いません。
- ・入力されたデータは、城西国際大学と業務委託契約締結した調査会社の保有するサーバー上に保管されますが、データの保守には十分配慮されます。

○解析用のデータはセキュリティ機能のある USB メモリーの中に保管され、厚生労働省への報告後5年間保管された後に物理的に破壊することで破棄される。

なお、本調査研究は、城西国際大学人を対象とする研究倫理審査委員会の承認を受けております。(承認番号 07F230040)

本調査の本調査研究の重要性をご理解頂きご回答いただきますようお願いいたします。

なお、本研究の研究班は以下のメンバーで構成されています。

実施責任者 城西国際大学・薬学部・特任教授 山村重雄
東京大学大学院・薬学研究科・医薬政策学講座・特任研究員 岡崎光洋
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・教授 藤 秀人
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・客員助教 友成 真理
富山大学・学術研究部薬学・和漢系・協力研究員 藤岡 孝志
学校法人昭和大学・薬学部社会健康薬学講座 社会薬学部門客員教授 倉田なおみ
城西国際大学・看護学部・教授 四十竹美千代

研究責任者の連絡先

城西国際大学薬学部 特任教授 山村重雄

〒283-8555 千葉県東金市求名 1

電話:0485-53-4544 s_yama@jiu.ac.jp

研究責任者の連絡先

城西国際大学薬学部 特任教授 山村重雄

〒283-8555 千葉県東金市求名 1

電話:0485-53-4544 s_yama@jiu.ac.jp

城西国際大学と業務委託した調査会社

株式会社矢野経済研究所 PSU1 武田浩二

〒164-8620 東京都中野区本町 2-46-2 中野坂上セントラルビル

電話:03-5371-6925 ktakeda@yano.co.jp

SC1. 上記の内容に同意いただける場合は、「同意する」を選んでアンケートへお進みください。

5. 同意する

6. 同意しない

I 薬局の基本情報について

AQ1. 同一グループ(財務上又は営業上若しくは事業上、緊密な関係にある範囲の保険薬局)の店舗数(貴薬局を含む)で当てはまるものを選択してください。

1.1 店舗

2.2~5 店舗未満

3.5~20 店舗未満

4.20 店舗以上 50 店舗未満

5.50 店舗以上 300 店舗未満

6.300 店舗以上

AQ2. 貴薬局の所在地を教えてください。

都道府県を選択してください。

AQ3. 貴薬局周辺の公共交通機関の運行状況について教えてください。

1. 正午時間帯に 15 分以内の間隔で運行している。

2. 正午時間帯に 30 分以内の間隔で運行している。

3. 正午時間帯に 60 分以内の間隔で運行している。

4. 正午時間帯にほとんど運航されておらず、自家用車など交通手段が必要である。

5. その他

AQ4. 貴薬局の立地の状況を教えてください。

o. 診療所の敷地内または周辺

p. 大病院(400 床以上)の敷地内または周辺

q. 中小病院(400 床未満)の敷地内または周辺

r. 同一ビル内に複数の医療施設(医療モール)

s. 同一ビル内に単一の医療機関

t. 同一敷地内に複数の医療機関(医療ビレッジ)

u. その他(自由記述)

AQ5. 貴薬局の開局からの年数を教えてください。(整数でお答えください)

() 年

AQ6. 貴薬局(当該店舗)に勤務する薬剤師の人数についてお答えください。

(該当者がいない場合は「0」と記入)

※常勤薬剤師数は、貴薬局で定めた就業規則に基づく勤務時間の全てを勤務する薬剤師とします。

※※非常勤薬剤師は、勤務時間が貴薬局で定める勤務時間に満たない薬剤師とします。

	常勤薬剤師	非常勤薬剤師
1.当該店舗に勤務する薬剤師数(休職中の者も含む)	人	人
2.当該店舗に1年以上勤務している薬剤師数	人	人
3.薬剤師認定制度認証機構が認証している研修認定制度等の研修認定を取得した薬剤師数	人	人
4.健康サポート薬局研修受講済み薬剤師数	人	人
5.かかりつけ薬剤師として登録している薬剤師数	人	人

AQ7. 貴薬局における2023年1月1日～12月31日間の処方箋受付回数を教えてください。

()回

AQ8. 貴薬局で処方箋応需回数が最も多い医療機関が占める処方箋集中度(%)を教えてください。

()%

AQ9. 貴薬局で届出または算定しているものがあれば教えてください。(いくつでも)

1. 地域支援体制加算 1
2. 地域支援体制加算 2
3. 地域支援体制加算 3
4. 地域支援体制加算 4
5. 服薬情報提供料1
6. 服薬情報提供料 2
7. 服薬情報提供料3
8. 特定薬剤管理指導加算 2
9. 連携強化加算
10. かかりつけ薬剤師包括管理料
11. かかりつけ薬剤師指導料
12. 無菌製剤処理加算
13. 在宅患者調剤加算
14. 在宅患者訪問薬剤管理指導料
15. あてはまるものはない

AQ10. その他の認定や届け出について

AQ10.1. 貴薬局では健康サポート薬局の届出を行っていますか。

1. はい
2. いいえ(要件を満たしていないため、届出していない)
3. いいえ(要件は満たしているが、届出していない)

AQ10.2. 貴薬局では地域連携薬局の認定をとっていますか

- a. はい
- b. いいえ
- c. 認定要件は有しているが、申請していない

AQ11. 貴薬局では OTC 医薬品(要指導医薬品・一般用医薬品)の販売をしていますか？

- 1. はい
- 2. いいえ

AQ11.1. OTC 医薬品を販売している場合、取り扱っている製品の品目数を教えてください。

(同じ製品でも、規格や含有数が異なる物は別製品として考えるため、JAN コードが異なれば、同一の医薬品でも別物としてカウントしてください。)

()品目

AQ12. 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日で、貴薬局が開局時間外に患者や地域住民から受けた相談件数の頻度を教えてください。

- 1. なかった
- 2. ほとんどない(月 1 回程度)
- 3. 週 1 回程度
- 4. 週 2～5 回程度
- 5. 週 6 回以上

AQ13. 夜間・休日等の開局時間外の調剤について

AQ13.1. 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日で、貴薬局が夜間・休日等の開局時間外に患者などから調剤の求めはありましたか。

- 1. なかった
- 2. ほとんどない(月 1 回程度)
- 3. 週 1 回程度
- 4. 週 2～5 回程度
- 5. 週 6 回以上

AQ13.2 AQ13.1 の質問で、「AQ13.1 の選択肢が標記されます」と回答された方は、そのときどのような対応をされていますか。

- 1. 主に自薬局で調剤する
- 2. 主に時間外の調剤に対応する他の薬局(夜間・休日の輪番薬局)などを紹介する
- 3. その他(自由記述)

AQ13.3 開局時間外に、相談を応需できるようにするために、薬局への連絡先を患者や地域住民にどのような方法で周知していますか。(いくつでも)

- 1. 薬剤情報提供書
- 2. おくすり手帳
- 3. 薬袋
- 4. 自局のホームページ
- 5. 行政・薬剤師等のホームページ
- 6. パンフレットなど
- 7. 周知していない
- 8. その他(自由記載)

AQ14. 2023 年 12 月 31 日に、貴薬局で在庫していた調剤用医薬品の品目数を教えてください。

(同じ医薬品名でも、剤形、規格や含有数が異なる場合は別製品として考えるため、GS1 コードが異なれば、同一の医薬品でも別製品としてカウントしてください。)

()品目

AQ15. 現在、薬局で取り扱っている麻薬および抗がん薬(ホルモン薬を含む)の品目数を教えてください。
(同じ医薬品名でも、剤形、規格や含有数が異なる場合は別製品として考えるため、GS1コードが異なれば、同一の医薬品でも別製品としてカウントしてください。)
麻薬 ()品目
抗がん薬()品目

AQ16. 貴薬局の在庫医薬品の周知について教えてください。

AQ16_1. 貴薬局で、在庫している医薬品の情報を近隣の薬局などに周知していますか。

1. 周知している
2. 周知していない

AQ16_2. AQ16_1 の質問で、「周知している」と回答された方は、どのような方法で周知していますか。(いくつでも)

1. インターネットで閲覧できるようにしている
2. 在庫一覧表を配布している
3. その他(自由記述)

AQ17. 貴薬局は、地域の薬剤師会(県薬剤師会、地域薬剤師会等)との連携は取れていると思いますか。

1. 十分に取れていると思う
2. ある程度は取れていると思う
3. あまり十分ではないと思う
4. 取れていないと思う
5. 薬剤師会に加入している薬剤師はいない
6. その他

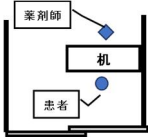
AQ18. 貴薬局は、地域で健康サポートや医薬品に関する教育等をおこなっていますか。(いくつでも)

1. 薬局単独でやっている。
2. 近隣の施設と連携してやっている
3. 自治体と連携してやっている。
4. やっていない

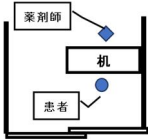
II. 専門医療機関連携薬局の設備等について

BQ1. 貴薬局の、2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日間にを行った中心静脈栄養製剤等の無菌製剤処理の件数を教えてください。
()件

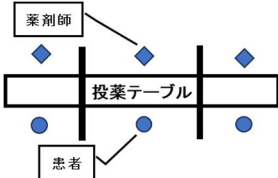
BQ2. 貴薬局の利用者の服薬指導等の際に配慮した構造設備(説明環境)は、下記のどちらになりますか。
a. 天井まで遮蔽され壁で覆われている完全個室(他人の目に触れることはなく、隣の話し声が聞こえにくい状況)



b. パーティションなどで他の患者と区分された半個室(壁が天井まで覆われていない)ブース(他人の目に触れることはないが、隣の話し声が聞こえる状況)



c. 投薬カウンターに、隣の患者とパーティションで分けられ、患者や顧客が着座できるスペース(他人の目に触れ、隣の話し声が聞こえる状況)



d. その他(自由記述)

BQ3. 貴薬局が専門医療機関連携薬局の要件を満たすにあたり、苦労されたかどうかを教えてください。
(それぞれひとつずつ)

	非常に苦労した	苦労した	どちらでもない	あまり苦労しなかった	苦労しなかった
1.利用者が座って情報の提供及び薬学的知見に基づく指導を受けることができる個室その他のプライバシーの確保に配慮した設備を有すること。	1	2	3	4	5
2.高齢者、障害者等の円滑な利用に適した構造であること。	1	2	3	4	5
3.過去一年間において、利用者の治療方針を共有するためにがん治療に係る医療機関との間で開催される会議に継続的に参加させていること。	1	2	3	4	5
4.がん治療に係る利用者の薬剤及び医薬品の使用に関する情報についてがん治療に係る医療機関に勤務する薬剤師等に対して随時報告及び連絡することができる体制を備えていること。	1	2	3	4	5

5.過去一年間において、がん治療に係る利用者の半数以上の者の薬剤及び医薬品の使用に関する情報についてがん治療に係る医療機関に勤務する薬剤師等に対して報告及び連絡させた実績があること。	1	2	3	4	5
6.がん治療に係る利用者の薬剤及び医薬品の使用に関する情報について地域における他の薬局に対して報告及び連絡することができる体制を備えていること。	1	2	3	4	5
7.開局時間外であっても、利用者からの薬剤及び医薬品に関する相談に対応する体制を備えていること。	1	2	3	4	5
8.休日及び夜間であっても、調剤の求めがあった場合には、地域における他の薬局開設者と連携して対応する体制を備えていること。	1	2	3	4	5
9.在庫として保管するがん治療に係る医薬品を、必要な場合に他の薬局開設者に提供する体制を備えていること。	1	2	3	4	5
10.麻薬の調剤の求めがあった場合には、当該薬局で調剤させる体制を備えていること。	1	2	3	4	5
11.医療安全対策に係る事業に参加する等、医療安全対策を講じていること。	1	2	3	4	5
12.常勤として勤務している薬剤師の半数以上が、当該薬局に継続して一年以上常勤として勤務している者であること。	1	2	3	4	5
13.がんに関する専門性の認定を受けた常勤の薬剤師を配置していること。	1	2	3	4	5
14.実務に従事する全ての薬剤師に対し、一年以内ごとに、がんに関する専門的な薬学的知見に基づく調剤及び指導に関する研修を計画的に受けさせていること。	1	2	3	4	5
15.地域における他の薬局に勤務する薬剤師に対して、がんに関する専門的な薬学的知見に基づく調剤及び指導に関する研修を継続的に行っていること。	1	2	3	4	5
16.過去一年間において、地域における他の医療提供施設に対し、がんに関する医薬品の適正使用に関する情報を提供していること。	1	2	3	4	5

BQ4. 貴薬局は専門医療機関連携施設としての機能が利用者からどの程度理解されていると思いますか。

	十分に理解されている	やや理解されている	どちらでもない	あまり理解されていない	理解されていない
1.高度で専門的な薬学管理を必要な患者さんに対応可能な薬局である。	1	2	3	4	5
2.周辺の医療機関や薬局と情報を共有できる体制が整っている薬局である。	1	2	3	4	5
3.勤務している薬剤師はがん治療に関して専門的な知識を持っている薬局である。	1	2	3	4	5
4.プライバシーに配慮し患者さんや高齢者、障害者なども円滑に利用できる薬局である。	1	2	3	4	5

5.開局時間外の相談にも対応出来る薬局である。	1	2	3	4	5
6.休日や夜間に調剤を応需することができる薬局である。	1	2	3	4	5
7.地域全体で医薬品の供給に勤めている薬局である。	1	2	3	4	5

BQ5. 貴薬局では、専門医療機関連携である事をどのように掲示・広報していますか。(いくつでも)

1. 店内に認可証を掲示している
2. 自作したポスターなどで専門医療機関連携薬局であることを示している
3. 薬局の外看板などに専門医療機関連携薬局であることを示している
4. 薬局のホームページや SNS のページに掲載している
5. 地域に配布するパンフレットに専門医療機関連携薬局であることを記載した
6. 来局者にパンフレットなどを配布した
7. 地域の医療機関に対しメール、手紙などで案内した
8. 会議、勉強会などで地域の医療機関に周知した
9. 地域の薬剤師会を通して地域の医療機関に周知した
10. その他(自由記述)

BQ6. 貴薬局では、専門医療機関連携薬局を維持するために、必要となっている1年間の経費(研修のための費用や交通費、更新申請費、備品費など)の合計金額を教えてください。

1. 10万円未満
2. 10万円以上 50万円未満
3. 50万円以上 100万円未満
4. 100万円以上

BQ7. 貴薬局と専門医療機関との連携状況、特に、2023年1月1日～12月31日で専門医療機関との間で開催された会議、勉強会、情報交換会(会議等)の回数および参加している薬剤師ののべ人数に関して教えてください。

注:以下、「専門医療機関」とは、厚生労働大臣が指定するがん診療連携拠点病院等及び各都道府県が専門的ながん医療を提供するものとして認めた医療機関(以下「がん治療に係る医療機関」とします)。

BQ7_1.連携している専門医療機関の数を教えてください。

()

BQ7_2.主に連携している専門医療機関名を1つ挙げてください。

()

BQ7_3.「BQ7_2で回答した医療機関名が標記されます」へ薬局から移動するのにどのくらいの時間がかかりますか。

1. 30分以内程度
2. 時間以内程度
3. 1時間半以内程度
4. 2時間以上

BQ7_4. 連携しているすべての専門医療機関が開催した会議等の回数を教えてください。

()回

BQ7.5. 上記会議に参加した貴薬局の薬剤師数を教えてください。
のべ()人

BQ7.6. BQ7.4 の会議等の回数のうち、主に連携している専門医療機関(BQ7.2_で回答した医療機関名が標記されます)で開催された会議の回数を教えてください。
()回

BQ7.7. 主に連携している専門医療機関(BQ7.2_で回答した医療機関名が標記されます)で実施された会議の内容を教えてください。(いくつでも)

1. レジメンの内容に関する会議(レジメン委員会など)
2. がん患者のがん治療に関する会議(カンサーボードなど)
3. がん患者の在宅医療に関する会議(退院時カンファレンスなど)
4. その他(自由記述)

BQ7.8. 連携している専門医療機関以外が開催するがん治療に関する会議等の回数を教えてください。
()回

BQ7.9. 上記会議等に参加した薬剤師数を教えてください。
のべ()人

BQ7.10. 貴薬局が開催した連携医療機関との会議等の回数を教えてください。
()回

BQ7.11. 上記会議に参加した貴薬局の薬剤師数を教えてください。
のべ()人

BQ7.12. BQ7.10 で開催された会議に参加した専門職を教えてください。(いくつでも)

1. 当該薬局の薬剤師
2. 連携医療機関の医師
3. 連携医療機関の薬剤師
4. 近隣薬局の薬剤師
5. 連携医療機関以外の施設の医師
6. その他(自由記述)

BQ8. 貴薬局が直近一ヶ月間で、処方箋を応需した全患者数とがん患者数(正確な数値がわからない場合は概数)を教えてください。

以下の質問で、「がん患者」は、持参される処方箋に抗がん剤が含まれる患者、がん化学療法は病院内で完結している患者、緩和ケアに移行している患者を含みます。

全患者数()人

がん患者数()人

上記のがん患者のうち、貴薬局の薬剤師がかかりつけ薬剤師となっている患者数(正確な数値がわからない場合は概数)を教えてください。()人

BQ9. 貴薬局の連携医療機関以外のがん患者数を教えてください。
()人

BQ10. 貴薬局が直近 1 か月間に連携医療機関に勤務する医師・薬剤師等へのがん患者に関連した報告及び連絡件数を教えてください。

BQ10_1. 総件数 () 件

BQ10_2. 報告した内容について教えてください(いくつでも)

1. 抗がん剤の用法用量
2. 患者の悪心・嘔吐の状態
3. 患者の下痢・便秘の状態
4. 患者の発熱性好中球減少症に関する内容
5. 患者の皮膚障害の状況
6. 患者の過敏症に関する状況
7. オンコロジーエマージェンシーに関する状況
8. 患者の末梢神経障害に関する状況
9. 患者の免疫関連有害事象に関する状況
10. 患者のアドヒアランスに関する状況
11. 在庫管理の現状についての報告
12. その他(記載記述)

BQ10_3. どのような方法で報告しましたか。経験があるものと最も多い方法を教えてください。

	経験あり	もつとも多い
印刷した文書(提出または郵送)で報告	1	2
電子化した文書(電子メール等)で報告	1	2
その他の方法で報告(例えば FAX)	1	2
緊急時の電話対応	1	2
その他(自由記述)	1	2

Ⅲ 他の薬局への報告実績について

BQ14. 貴薬局が 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日間の報告実績を教えてください。

BQ14_1. 件数を教えてください。() 件

BQ14_2. 報告した薬局数を教えてください。() 薬局

BQ14_3. 主な報告内容について教えてください。(いくつでも)

1. 本人の主訴について
2. コンプライアンスについて
3. 副作用状況
4. その他(自由記述)

BQ15. 貴薬局では、外来がん治療を受けている患者さんが在宅に移行するときに医療機関の治療方針や服薬状況を在宅訪問する薬局に提供した経験はありますか。

1. ある
2. ない

BQ16. 貴薬局での、2023年1月1日～12月31日の間に抗がん剤を他薬局へ提供(小分け)したことの有無を教えてください。

BQ16_1. 回数を教えてください。()回。

BQ16_2. 薬局数を教えてください。()薬局

BQ16_1 で「1」回以上、もしくは BQ16_2 で「1」薬局以上とお答えの方へ

BQ16_3. 提供(小分け)したことがある薬局まで距離を教えてください(いくつでも)

1. 近隣薬局(100m 以内)
2. 近隣薬局(100-500m)
3. 遠方薬局(500-2000m)
4. 遠方薬局(2000m 以上)

IV 専門性を有する薬剤師および指導体制について

BQ17. 貴薬局に勤務している日本医療薬学会の地域薬学ケア専門薬剤師(がん)の認定を受けた薬剤師の人数を教えてください。

()名

BQ18. 貴薬局に勤務している日本臨床腫瘍薬学会の外来がん治療専門薬剤師の認定を受けた薬剤師の人数を教えてください。

()名

BQ19. 貴薬局に勤務する薬剤師の教育体制について教えてください。

BQ19_1 2023年1月1日～12月31日の間に実施した研修回数について教えてください。

BQ19_1A. 自施設における研修()回

BQ19_1B. 他施設での研修への参加()回

BQ19_1C. 主な研修内容(いくつでも)

1. 最新のがん治療
2. 副作用対策(.悪心・嘔吐)
3. 副作用対策(下痢・便秘)
4. 副作用対策(発熱性好中球減少症)
5. 副作用対策(.皮膚障害)
6. 副作用対策(過敏症)
7. 副作用対策(オンコロジーエマージェンシー)
8. 副作用対策(末梢神経障害)
9. 副作用対策(免疫関連有害事象)
10. その他の副作用(自由記述)
11. 医療安全対策
12. 薬薬連携
13. 在庫管理
14. その他(自由記述)

BQ20. 貴薬局が行う、地域の薬局（貴薬局以外）に勤務する薬剤師に対する専門的研修の実施状況を教えてください。

BQ20_1. 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日の間に実施した研修回数について教えてください。

BQ20_1A. 自施設における研修（ ）回

BQ20_1B. 他施設における研修（ ）回

BQ20_1C. 主な研修内容（いくつでも）

1. 最新のがん治療
2. 副作用対策（.悪心・嘔吐）
3. 副作用対策（下痢・便秘）
4. 副作用対策（発熱性好中球減少症）
5. 副作用対策（.皮膚障害）
6. 副作用対策（過敏症）
7. 副作用対策（オンコロジーエマージェンシー）
8. 副作用対策（末梢神経障害）
9. 副作用対策（免疫関連有害事象）
10. その他の副作用（自由記述）
11. 医療安全対策
12. 薬薬連携
13. 在庫管理
14. その他（自由記述）

BQ20_2. 1 回の研修に参加した薬局数の概数を教えてください。

（ ）薬局

BQ20_3. 1 回の研修に参加した薬剤師数（貴施設の薬剤師を除く）の概数を教えてください。

（ ）人

BQ21. 貴薬局のがん専門薬剤師が受けている、連携病院での更新のための研修について教えてください。

BQ21_1. 頻度はどのくらいですか

1. 月に 1 度以上
2. 数か月に 1 度
3. 半年に一度
4. 1 年に一度
5. 受けていない

BQ21_2. 一回の研修期間はどのくらいですか

1. 1 時間程度
2. 半日程度
3. 全日
4. 数日間

BQ21_3 就業と研修の時間の関係を教えてください。

1. 就業時間外（休日を含む）に行っている
2. 就業時間内に行っている

BQ22. 貴薬局が行っている、地域の薬局に対する抗がん薬の適正使用に関する情報提供について教えてください。

ここでの情報提供とは適正使用に関する以下のような内容を指します。

BQ22_1. 情報提供の内容について教えてください。（いくつでも）

1. 抗がん剤や支持療法で用いられる医薬品の有効性及び安全性の情報や特徴について
2. 承認審査で用いられる臨床試験の情報について
3. PMDA における審査報告書の情報について
4. 医薬品リスク管理計画（RMP）の情報について
5. その他（自由記述）

BQ22_2. 2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの間の情報提供回数を教えてください。

()回

V 貴薬局に勤務する外来がん治療専門薬剤師または地域薬学ケア専門薬剤師(がん)について

※「がん専門薬剤師」の方にお答えをお願い致します。

BQ23. あなたのこれまでの経緯について教えてください。

BQ23_1. 外来がん治療専門薬剤師または地域薬学ケア専門薬剤師(がん)の認定をとるきっかけを教えてください。(主なものを3つまで)

1. 専門薬剤師となりたかった
2. 自身のスキルアップのため
3. がんやがん薬物療法に興味があった
4. がんに関連する病棟での業務経験
5. がん患者のケアに携わりたかった
6. がんに関わる研究をやりたいかった
7. 上司、先輩や同僚からのすすめ
8. 病院・薬剤部や会社からの指示・依頼
9. その他(自由記述)

BQ23_2. どこで認定条件を満たしたか教えてください。

1. 現在働いている施設
2. 以前に働いていた病院
3. 以前に働いていた薬局
4. その他(自由記述)

BQ23_3. 資格を目指してから資格認定まで何年かかりましたか。

()年

BQ23_4. 症例報告の指導者がいましたか。

1. いた
2. いない

BQ23_5. 資格認定に必要な症例数についてどう思いますか。またその理由を教えてください。

1. 多すぎる →(自由記述)
2. ちょうど良い →(自由記述)
3. 少なすぎる →(自由記述)

BQ23_6. 資格認定を取得する際の会社からのフォローはありましたか。あった場合はその内容を具体的に教えてください。

1. あった →(自由記述)
2. なかった

BQ23_7. 取得する課程で苦労した・困ったことがあれば記載してください。

(自由記載)

BQ23_8. 取得したことで患者ケアにどのような影響があったと思いますか。

(自由記載)

BQ23_9. 取得したことで薬局の業務内容や環境がどのように変わりましたか。

(自由記載)

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

BQ24. 引き続き、専門医療機関連携薬局を利用している患者さん(5 から 10 名程度)に対しても、専門医療機関連携薬局の認知度や期待する専門職能などを調査したいと考えています。

薬局を利用している患者さんに対するアンケートにご協力いただける場合にはチェックをいれてください。
(ご協力いただける場合はおって詳細を説明させていただきます。)

1. 患者さんのアンケートに協力できる
2. 患者さんのアンケートに協力できない

※「送信」をクリックしていただきましたらアンケートは終了となります。
(

研究成果の刊行に関する一覧表

特記事項無し

「厚生労働科学研究費における倫理審査及び利益相反の管理の状況に関する報告について

2024年 5月 29日

厚生労働大臣 殿

機関名 城西国際大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 倉 林 眞 砂 斗

次の職員の令和 5 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 医薬品・医療機器等レギュレトリーサイエンス政策研究事業
2. 研究課題名 地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 薬学部医療薬学科 特任教授
(氏名・フリガナ) 山村 重雄 (ヤマムラ シゲオ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒ ☐	☒	城西国際大学 人を対象とする研究倫理審査委員会	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐ ☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

- (※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
- (※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は そ の 理 由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は 委 託 先 機 関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は そ の 理 由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有 の 場 合 は そ の 内 容：)

- (留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
- ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和6年5月22日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 藤井 輝夫

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費補助金の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
- 研究課題名 地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 大学院薬学系研究科・特任研究員
(氏名・フリガナ) 岡崎 光洋・オカザキ ミツヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒ ☐	☒	城西国際大学薬学部	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	☐ ☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口をチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 学校法人昭和大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 小口 勝司

次の職員の令和5年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業
2. 研究課題名 地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 薬学部社会健康薬学講座社会薬学部門・客員教授
(氏名・フリガナ) 倉田 なおみ・クラタ ナオミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒ ☐	☒	城西国際大学	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐ ☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

- (※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
- (※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は そ の 理 由 :)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は 委 託 先 機 関 :)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は そ の 理 由 :)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有 の 場 合 は そ の 内 容 :)

- (留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 城西国際大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 倉 林 眞 砂 斗

次の職員の令和 5 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 医薬品・医療機器等レギュレトリーサイエンス政策研究事業
2. 研究課題名 地域連携薬局・専門医療機関連携薬局が地域で果たすべき機能に関する調査研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 薬学部医療薬学科 特任教授
(氏名・フリガナ) 四十竹 美千代 (アイタケ ミチヨ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	☒ ☐	☒	城西国際大学 人を対象とする研究倫理審査委員会	☐
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	☐ ☒	☐		☐
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	☐ ☒	☐		☐
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	☐ ☒	☐		☐

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☒ 未受講 ☐
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は そ の 理 由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は 委 託 先 機 関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ☒ 無 ☐ (無 の 場 合 は そ の 理 由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ☐ 無 ☒ (有 の 場 合 は そ の 内 容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。